

聖心女子大学 2026(令和 8)年度 一般選抜(総合小論文方式 2 月期) 問題

問 1

【資料 1】は、国立青少年教育振興機構が 2025 年 7 月に公表した、日本・米国・中国・韓国の高校生の科学への意識と学習に関する調査結果の一部です。これらの図(図 1、図 4、図 16)から読み取ることができる、日本の高校生の特徴として、以下の (a) から (e) それぞれの文章について、正しければ○を、誤っていれば×を解答しなさい。

- (a) 日本の高校生は、将来に役立つと思う科目として、「数学」と回答した割合が約 40%で、米国・中国の高校生に比べて 20 ポイント以上低い。
- (b) 「物理」「化学」「生物」について、将来に役立つと回答した日本の高校生は、いずれも約 15%にとどまっており、4 か国中最も低い。
- (c) 大学や専門学校で専攻したい分野として、「理学系」を選んだ日本の高校生の割合は、4 か国中でもっとも低い。
- (d) 日本の高校生は、大学や専門学校で専攻したい分野として、「医・歯・薬学系」を選んだ者がもっとも多い。
- (e) 日本の高校生のデジタル技術の活用経験は、他の国の高校生とほぼ同程度である。

問 2

【資料 2】は、科学領域におけるジェンダーをテーマとする論文の一部です。この資料を読み、以下の問いに答えなさい。

1. 下線部①を日本語に訳しなさい。

2. 下線部②を日本語に訳しなさい。

3. 空欄

ア

イ

ウ

エ

オ

 に入る単語を以下の語群からひとつずつ選び、記号で答えなさい。

(a) minority (b) approach (c) intention (d) occupation (e) percentage

4. (a) から (e) それぞれの文章について、Figure 1. の (a)、(b)、(c) のグラフの内容を踏まえて適切である場合○を、適切でない場合×を解答しなさい。

- (a) 日本の大学における女子学生の比率は、2017 年現在、「機械工学」において最も少ない。
- (b) 日本の大学の医療領域では、「看護学」に次いで女子学生の比率が高いのは、「薬学」である。
- (c) 日本の大学においては、「法学」や「経済学」を専攻する女子学生の比率は、年々減少している。
- (d) 日本の大学の医療領域を除く科学領域では、女子学生の比率が 50%に満たない。
- (e) 日本の大学においては、2017 年までの 30 年間に、女子学生の占める割合が低下したのは、「看護学」のみである。

問3

【資料3】は、理系に進む女子が少ない理由に関する新聞記事の抜粋です。この文章を読み、以下の問いに答えなさい。

1. (a) から (e) それぞれの文章が正しければ○を、誤っていれば×を解答しなさい。

- (a) 理系に進む女性が男性よりも少ないのは、日本に固有の問題である。
- (b) 米国の7歳の子どもたちに「すごく、すごく賢い人」についての話を聞いてもらった後で、その人の性別はどちらだと思うか尋ねると、男女ともに7割が自分と同じ性別の人を選んだ。
- (c) フランスで、誕生日が少ししか違わないが学年が違う子どもの算数の成績を比較すると、学年が上の子どもにおいて、男女の成績の差がより大きかった。
- (d) フランスで行われた、小学生の算数の成績の追跡調査では、新型コロナウイルスの流行で学校が50日間閉じられた年には、成績の男女差はほかの年より小さかった。
- (e) 日本で大学の学部を卒業した女性のうち、STEM分野を選んでいた人の割合は、OECD主要7カ国の中で最も低い。

2. 下線部にある「ジェンダー平等のパラドックス(逆説)」を、それが起こる原因を複数挙げながら140字以内で説明しなさい。

問4

【資料1】から【資料3】を踏まえて、科学の領域に女性がより多く参画するにはどうしたらよいか、あなたの考えを600字から800字で述べなさい。

資料の出典

【資料 1】

国立青少年教育振興機構（2025）『高校生の科学への意識と学習に関する調査〔概要〕－日本・米国・中国・韓国の比較－』。 https://www.niye.go.jp/wp-content/uploads/2025/07/kagaku_gaiyou.pdf（2025年10月24日最終閲覧）

【資料 2】

Ikkatai, Y. et al., (2020). Gender-biased public perception of STEM fields, focusing on the influence of egalitarian attitudes toward gender roles. *Journal of Science Communication*, 19(01). <https://doi.org/10.22323/2.19010208>（2025年10月24日最終閲覧）

【資料 3】

小宮山亮磨（2025）「理系に進む女子、なぜ少ない？ 思い込みから力の差、小学校教育も原因か」『朝日新聞』11月7日朝刊，19.

聖心女子大学 2026(令和 8)年度 一般選抜(総合小論文方式 3 月期) 問題

問 1

【資料 1】は、豊かさと時間に関する文章です。豊かであるとはどういうことであると著者は述べているか。140 字以内で説明しなさい。

問 2

【資料 2】は、動画を視聴するにあたって、スイッチングできない状況で視聴した場合と、スイッチングしながら視聴した場合とで、視聴経験に違いがあるかどうかを比較した実験を紹介した、記事の一部です。この資料を読み、以下の問いに答えなさい。

1. (a) から (e) それぞれの文章について、本文の内容と Figure1 (参加者による実験結果の予測) および Figure2 (実験結果) を踏まえ、適切である場合○を、適切でない場合×を解答しなさい。

- (a) 実験では、動画の視聴経験について、「退屈度」「満足度」「集中度」のそれぞれについて 1 点から 7 点で評価してもらった。
- (b) 予測では、動画をスイッチングできない状況で視聴した場合の方が、スイッチングしながら視聴した場合と比べて、「退屈度」は低かったが、実験結果では、スイッチングしながら視聴した場合の方が「退屈度」は高かった。
- (c) 実験結果では、スイッチングできない状況で視聴した場合の方が、「満足度」が低かった。
- (d) 実験結果では、スイッチングしながら視聴した場合の方が、「集中度」が高かった。
- (e) 動画の退屈さは視聴の仕方よりもその動画の内容によって決まる。

2. 下線部①を日本語に訳しなさい。

3. 下線部②を日本語に訳しなさい。

4. 空欄

ア	イ	ウ	エ	オ
---	---	---	---	---

 に入る単語を以下の語群からひとつずつ選び、記号で答えなさい。

- (a) imagined (b) realized (c) included (d) changed (e) wondered

問3

【資料3】は、費やした時間に対する成果に関する年代別のデータです。グラフに関する(a)から(e)それぞれの文章について、適切な場合は○を、適切でない場合は×を答えなさい。

- (a) 「費やした時間に対する成果を重視する」に当てはまらないと答えた割合が全体のそれを超えるのは、60歳代以上である。
- (b) 年齢が上がるほど「費やした時間に対する成果を重視する」割合は減少する。
- (c) この調査の回答者は70歳以上が最も多い。
- (d) 20歳代の方が30歳代よりも「費用対効果を重視する」に当てはまると考える人が多い。
- (e) 「費やした時間に対する成果を重視する」という問いに、どちらともいえないと回答した割合が最も少ないのは10歳代である。

問4

【資料4】は、哲学者が書いた時間に関するエッセーです。この資料を読み、以下の問いに答えなさい。

1.

ア

 に入る適切な語を、本文中の単語を用いて答えなさい。
2. 下線部①「スピードは空間を征服した」について、著者は何がそれを生起させたところで述べているか。本文中の語句を用いて答えなさい。
3. 下線部②「未来は痛いほど個人的なものになる」について、なぜそのようになるのか。(a)から(e)の文章のなかから、その理由として適切なものを2つ選び記号で答えなさい。
 - (a) 自分の死が他人事でないと理解したから。
 - (b) 未来の可能性の広がり不安を感じるから。
 - (c) 平静を装い続けることが苦痛だから。
 - (d) 大切な人が死ぬ確率を統計で確認できたから。
 - (e) 自分の時間の有限性を認識したから。

問5

【資料1】から【資料4】を踏まえて、費やした時間に対する成果、いわゆるタイムパフォーマンスについて、あなたの考えを600字から800字で述べなさい。

【配点】問1、問2、問3、問4：合計150点 問5：150点 総計300点

資料の出典

【資料 1】

アラン(1993)『幸福論』集英社文庫, pp. 167-168.

【資料 2】

Wilke, C. (2025, January 8). Science News Explores. Analyze This: Skipping through Videos May Increase Boredom Thinking Twice before You Fast-Forward or Scroll Away Could Help You Enjoy More of What You Watch. <https://www.snexplores.org/article/skipping-through-videos-increase-boredom> (2025年10月24日最終閲覧)

【資料 3】

消費者庁 (2023) 『令和4年度消費者意識基本調査』の結果について]. https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/research_report/survey_002/assets/consumer_research cms201_230613_11.pdf (2025年10月24日最終閲覧)

【資料 4】

マーク・クーケルパーク, 直江清隆・佐藤駿・鹿野祐介訳 (2024) 『デジタルテクノロジーと時間の哲学』丸善出版, pp. 2-4.